

J A 自己改革推進レポートについて

令和6年1月24日
J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A グループ鳥取の取り組み

① 農業の素晴らしさを知り、地域農業に関心を J A 子どもフェスタ

J A グループ鳥取は12月9日、琴浦町のまなびタウンとうはくでJ A 子どもフェスタを開催した。第59回わかば作文・図画コンクールとJ A 共済鳥取県小・中学生第67回書道・第46回交通安全ポスターコンクールの表彰式を行い、県内小中学校の児童・生徒51人の受賞を祝った。

未来を担う児童・生徒が農業の素晴らしさを知り、地域農業に関心を高めてもらおうとJ A グループ鳥取が毎年開催。わかば作文・

図画コンクールには、県内小中学校117校から作文部門160点と図画部門352点の応募、書道・交通安全ポスターコンクールには県内小中学校から書道半紙の部7263点、書道条幅の部245点、ポスター463点の応募があった。

受賞者を代表し、作文の部で最優秀賞の県知事賞に輝いた東伯中学校2年の松田真子さんが「たくさんのありがとう」と題して受賞作品を発表した。祖父と野菜の収穫をした時の思い出や手伝いを通じて作物のありがたさを感じたことなどを披露した。

J A 鳥取県中央会の栗原隆政会長は「作品には収穫体験の喜びが表現されていた。感動や思いが未来の農業につながるよう期待している」と話した。



② 農作業事故発生リスクの低減に向け意識を高める 農作業安全講習会

J A グループ鳥取や県などで組織する県農作業安全・農機具盗難防止協議会は12月11日と12日の2日間、倉吉市で担い手を対象とした農作業安全講習会を開催した。認定農業者や農業法人のオペレーターなど21人が参加。農業機械の安全な操作と事故事例を確認し、事故未然防止について理解を深めた。

担い手農業者に農作業事故発生リスクの低減に向け意識を高めてもらうのが狙い。県農林水産部農業普及推進室山下幸司専技主幹が県内の農作業事故の発生現状について説明し、片山安心コンサルタント合同会社の片山昌作氏が農作業時の作業安全について



の講演を行った。実技指導では、参加者がトラクターなど農業機械の危険操作を体験した。

参加者からは「死亡事故の人為的ミスがわかった」、「何気ない作業の危険性に気付かされた」、「今後も継続して開催してもらえたら、鳥取県の農業がより良くなると思う」などの意見があった。

③農業高校対抗料理コンクール 倉吉農業高校が3連覇

J A鳥取県中央会と県農業農協教育研究協議会は12月13日、鳥取市の地場産プラザ「わったいな」に隣接する「とりっこ広場」で、農業高校対抗料理コンクールを開催した。県内4校（鳥取湖陵高校、智頭農林高校、倉吉農業高校、日野高校）から各4人が出場し、生徒自ら考案したレシピを調理した。

第28回を迎えるコンクールの課題メニューは「県内産米粉、白バラ牛乳などの乳製品、県産牛肉など地場産農畜産物をふんだんに活用したランチ」とした。使用する食材は、各校が自家栽培する食材のほか、わったいなで県産牛肉や白バラ牛乳などを購入し、調理時間90分間で各校がオリジナルメニューを仕上げた。審査はJ A鳥取県中央会の谷垣重彦専務や全農ととりの尾崎博章県本部長らが務めた。審査の結果、倉吉農業高校がグランプリに輝き、3連覇を果たした。倉吉農業高校の生徒は「地産地消につながり、県内農畜産物の魅力を広められるようなレシピを考えた。多くの方に鳥取の魅力を感じて欲しい」と話した。



コンクールの出品料理は、1月15日から1月30日まで琴浦町の「ちっちゃなレストラン」で各校1品ずつを1プレートにして提供している。

④次世代総点検運動の取組強化

J A鳥取県中央会は、次世代総点検運動の確実な実践に向け、12月28日にJ A鳥取いなば、12月26日にJ A鳥取中央、12月25日にJ A鳥取西部と各J A本所にて対策会議を実施した。

本運動は、農業者が減少する中で、計画的かつ確実に次世代組合員、特に担い手を創出することを目的としたもので、第50回J A鳥取県大会において、生産部会をターゲットにして取り組むことを決議している。

対策会議では、各J Aにおける取組状況等を意見交換し、J A鳥取いなばでは「らっきょう生産組合」、J A鳥取中央では「梨生産部会」、J A鳥取西部では「日南トマト生産部」で取り組むことを確認し、生産部会自体が問題意識を持ち、主体的に取り組むことが重要であることを認識共有した。今後、各J Aにおいて、令和6年3月を目途にアンケート実施や生産部会との意見交換等を行い、4月以降、その取り組みの推進、他組織への拡大に取り組むこととしている。

J A鳥取県中央会は、今後も各J Aの取組強化、運動の円滑化に向けて引き続き支援に取り組んでいく。

(2) 大山乳業農業協同組合の取り組み

酪農教育ファーム研修会開催

大山乳業農協は11月14日、同組合本所で「酪農教育ファーム研修会」を開催した。酪農教育ファームは、酪農に関する知識を牧場の視察や見学を通じて消費者や子どもたちに伝える教育活動。今回の研修会には、酪農家、大山乳業の職員、関係者など32名が参加した。

研修会は、活動内容や酪農教育ファームの仕組み、教育活動を行ううえで必要な認証手続きについて酪農家に紹介し、新たな認証牧場やファシリテーターの育成を促すことを目的として開催され、鳥取県内2カ所の認証牧場である山下牧場（西伯郡大山町）とリバーズファーム（東伯郡琴浦町）から活動報告が行われた。

研修会終了後には酪農家や職員、関係者による意見交換会を行い、参加者からは「このような機会は無かったので、貴重な交流の場になった」「良いアイデアを得ることができた」などの声が上がっていた。



(3) 鳥取県畜産農業協同組合の取り組み

「じげ畜産ふれあい祭り」開催

鳥取県畜産農協は11月11日、若葉台の同組合本所で「じげ畜産ふれあい祭り」を開催した。組合員や地域住民など約1800人が訪れ大いに盛り上がった。

毎回人気の鳥取牛串焼きと牛肉焼きそばが好評で、開始直後から長い列ができた。また、つくたてのお餅、キッチンカーなども好評だった。フレッシュパーク若葉台ではふれあい祭り協賛セールを行い、地域住民との交流や鳥取県産牛の美味しさをアピールする機会となった。



(4) JA全農とつとりの取り組み

①木乃実神社収穫感謝祭

全農とつとりは11月10日、木乃実神社にて、収穫感謝祭を開催した。県内果樹生産者、JA、行政機関、全農とつとりの職員など約40人が参列し、各団体代表者が玉串を捧げ、昨季の収穫に感謝するとともに今季の豊作を祈った。

令和5年は高温干ばつや大型台風の被害など厳しい年となったが、生産者の努力により



高品質の果物が生産された。二十世紀梨については過去二番目に高い単価になるなど順調な販売となった。

例祭では今後も果樹産業が発展していくことを参拝者一同祈願した。

②令和5年産 J A鳥取西部 秋冬ネギ販売督励

全農とっとりは11月17日、大阪市中央卸売市場本場大果大阪青果(株) 野菜売り場にて秋冬ネギ販売督励を実施した。J A鳥取西部の加藤常務やJ A鳥取西部白ねぎ生産部の益田部会長、わかとりメイツも参加し、市場の方々に出荷最盛期(10月~2月)となったJ A鳥取西部産の秋冬ネギをPRした。

また、場内の卸・仲卸の皆さんに白ネギや白ネギのグッズ、「白ねぎのミルクスープ」の試食を提供した。白ネギの甘さをたっぷり感じる温かいスープは、大変好評だった。



(5) J A鳥取信連の取り組み

鳥取アグリセミナー2023を開催

J A鳥取信連は12月7日、倉吉体育文化会館で担い手への対応強化として、全農鳥取県本部、農林中央金庫と連携して「鳥取アグリセミナー2023」を開催した。

「持続可能な農業と食の提供のための情報の発信」をテーマに多様な専門家を講師として招き、セミナーを実施。個人農家、農業法人の経営者、J A関係者など約90人が受講者として参加した。



セミナーでは、「持続可能な農業」という観点から、株式会社後継者の学校(東京都千代田区)の大川原基剛代表取締役による「事業承継」をテーマにした講演が行われた。事業継承の全体像とその本質、失敗する理由を事由も交えながら講演を行い、経営者が後継者を育てるうえで重要なことなどを説明された。その他にも「鳥取県の鳥獣害対策」「米の販売取組」「加工業務用野菜」「農作業事故」に関するセミナーが実施された。

セミナーの内容とJ Aバンク鳥取中期戦略の取組事項である「農家担い手等への経営課題の把握・解決に向けた取組強化」には合致する部分がある。様々な経営課題やその対策、また普段聞くことができない情報を共有できたことなど、受講者にとって有意義な時間を過ごすことができた。今後もこの様な事業間連携の取り組みを行っていく。

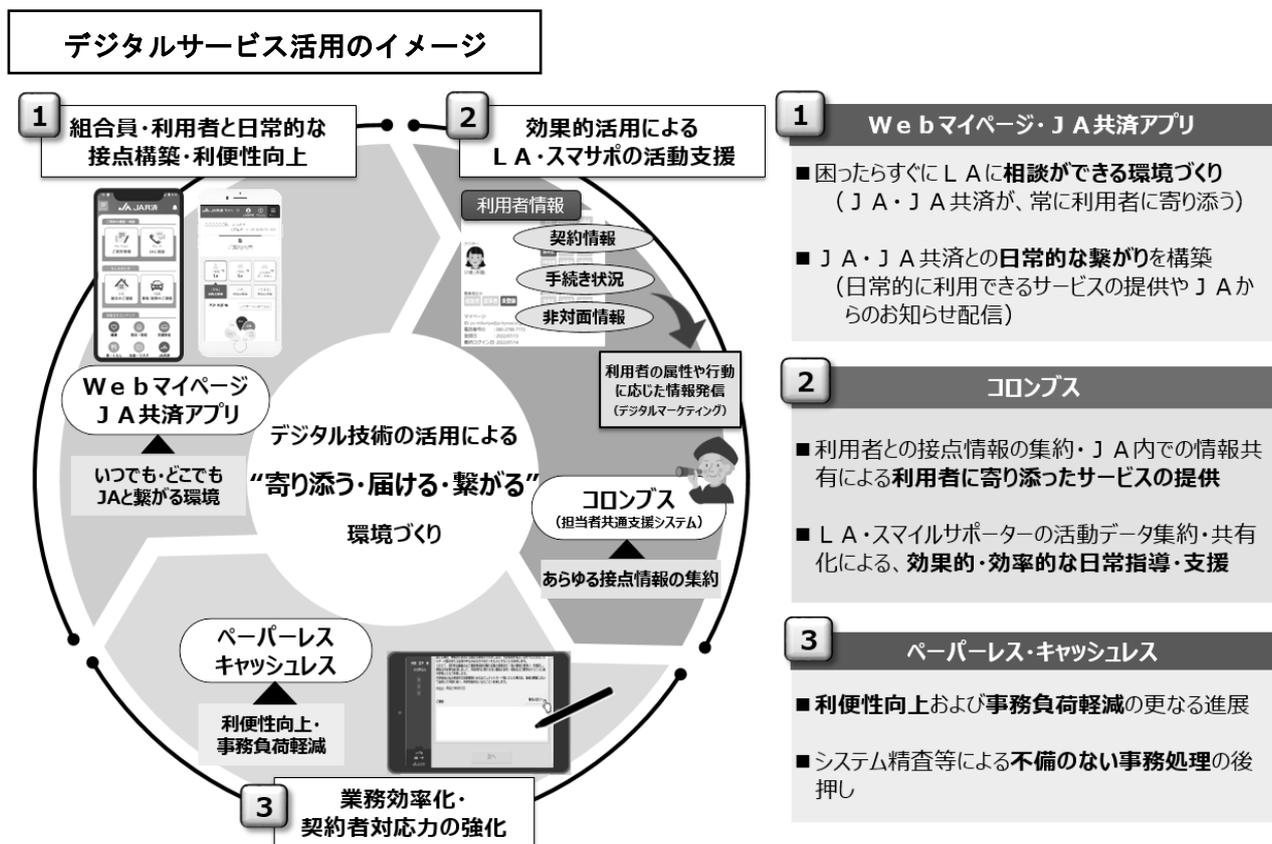
(6) JA共済連鳥取の取り組み

持続可能なJA経営基盤の確立・強化に向けて～デジタルサービスの活用と拡大～

JA共済連鳥取では、組合員・利用者に「寄り添い」、包括的な安心を「届け」、農業・地域社会とより広く・より深く「繋がる」ことで、地域への保障充足に向けた取り組みを展開し、「持続可能なJA経営基盤の確立・強化」の実現を目指している。

令和5年度では既存のシステムをコロンブス（担当者共通支援システム）に移管し、利用者情報をより一元的に管理できるよう拡充をすすめ、令和6年度ではフォルダー制度を廃止しマイページ制度に移行する予定としている。

JA共済では、今後も「寄り添う」「届ける」「繋がる」環境づくりとして“デジタルサービスの活用”を順次拡大させ、利用者と日常的な接点を構築し、利用者の状況に応じたサービスの提供を進めていく。また、より利便性向上・事務負担軽減に向けてペーパーレス・キャッシュレスの取り組みも引き続き強化していく。



鳥取県での各種状況推移	R3.3月末	R4.3月末	R5.3月末	R5.12月末
Webマイページ登録契約者数（累計）	—	2,616人	5,135人	6,549人
長期共済新契約ペーパーレス割合	88.2%	87.8%	88.9%	92.1%
長期共済新契約キャッシュレス割合	89.4%	91.1%	90.6%	91.5%
長期共済異動ペーパーレス割合	—	—	27.9%	53.7%

以上